



令和 5 年度 JRC オンライン語り部 LIVE 開催日程



対象が異なる校種の配信回にも、
もちろん参加いただけます。
ご都合の良い日程にご参加ください！

【 30 分配信 】 8 日間 16 回

開催日	時間帯（担当の語り部さん）	対象
令和 6 年 1 月 17 日（水）	① 11：00～11：30（佐藤美香さん） ② 13：30～14：00（菊池のどかさん）	小学校 3・4 年生
令和 6 年 1 月 18 日（木）	① 11：00～11：30（高橋正子さん） ② 13：30～14：00（阿部任さん）	小学校 5・6 年生
令和 6 年 1 月 24 日（水）	① 11：00～11：30（高橋匡美さん） ② 13：30～14：00（武山ひかるさん）	中学生
令和 6 年 1 月 25 日（木）	① 14：30～15：00（田村孝行さん） ② 16：00～16：30（木村紀夫さん）	高校生
令和 6 年 1 月 30 日（火）	① 11：00～11：30（高橋正子さん） ② 13：30～14：00（菊池のどかさん）	小学校 3・4 年生
令和 6 年 1 月 31 日（水）	① 11：00～11：30（高橋匡美さん） ② 13：30～14：00（紺野堅太さん）	小学校 5・6 年生
令和 6 年 2 月 6 日（火）	① 11：00～11：30（木村紀夫さん） ② 13：30～14：00（千葉颯丸さん）	中学生
令和 6 年 2 月 7 日（水）	① 14：30～15：00（千葉颯丸さん） ② 16：00～16：30（田村孝行さん）	高校生

【 60 分配信 】 3 日間 3 回 ※先着 5 校限定

開催日	時間帯（担当の語り部さん）	対象
令和 6 年 2 月 14 日（水）	11：00～12：00（佐藤美香さん）	小学校 5・6 年生
令和 6 年 2 月 15 日（木）	11：00～12：00（岩倉侑さん）	小学校 3・4 年生
令和 6 年 2 月 22 日（木）	11：00～12：00（紺野堅太さん）	中学生・高校生

【 90 分配信 】 4 日間 4 回 ※先着 5 校限定、

★前半 30 分の語り部さんのお話のみの参加も可能です（先着 90 校）

開催日	時間帯（担当の語り部さん）	対象
令和 6 年 2 月 14 日（水）	13：30～15：00（西城楓音さん）	小学校 5・6 年生
令和 6 年 2 月 15 日（木）	13：30～15：00（岩倉侑さん）	小学校 3・4 年生
令和 6 年 2 月 20 日（火）	15：30～17：00（阿部任さん）	高校生
令和 6 年 2 月 22 日（木）	13：30～15：00（菊池のどかさん）	中学生

* 語り部さんのプロフィール *

災害時の”ダメな”お手本

(伝えるポイント)

- ・津波避難の大切さ
- ・非常時の判断の難しさ



阿部 任 あべ じん

震災時は高校一年生。石巻市門脇町の実家で祖母と2人の時だった。裏山に避難せず2階にいたところ、家ごと津波に流され9日後に救出された。判断を誤り、多くの人に迷惑をかけてしまった後悔と、メディアでは奇跡の救出として報じられたことによる世間とのギャップに悩んだ経験を語る。

大学生と考える、あの日のこと

(伝えるポイント)

- ・小学生から見た東日本大震災
- ・ほぼ最年少の語り部
- ・未災地に対し思うこと



岩倉 侑 いわくら あつむ

宮城県石巻市で小学2年生の時に被災する。門脇小学校(※現在は震災遺構)から高台へ逃げて助かるも、自宅と学校を津波で失う。進学を機に宮城を離れ、現在は名古屋大学に通う現役の大学生。未災地での伝承ニーズを感じ、大学1年の秋から東海地方を拠点に語り部として活動する。活動開始後の約30回の講演のうち、半数以上を学校や児童館で行い、子供から見た東日本大震災を伝えている。

小・中学生にできること、やるべきこと

(伝えるポイント)

- ・災害が起きる前にできる備え
- ・自分の命を守るためにできること
- ・防災教育を受ける側の視点から見た防災教育の重要性



菊池 のどか きくち のどか

釜石東中学校2年生の時に、防災担当の整美委員長となる。3年生の3月11日に東日本大震災が被災し、隣接する小学校の児童とともに避難する。その経験をもとに、2019年4月より、いのちをつなぐ未来館職員として語り部・ガイドを行う。2021年5月に誰でもわかる・取り組むことができる防災教育の推進を目指し、神戸出身の2人の仲間とともに株式会社8kurasuを立ちあげ、現在はフリーランスで活動中。

津波と原発事故の経験から未来へ

(伝えるポイント)

- ・津波の被害と原子力災害
- ・発見までの5年9か月



木村 紀夫 きむら のりお

1965年、福島県大熊町生まれ。東日本大震災の津波で家族3人を亡くし、更に原発事故によって捜索が阻まれる。次女汐凧(ゆうな)の遺骨発見までに5年9か月を要し、いまだその8割は見つかっていない。そんな経験から「防災」と「豊かさへの疑問」について考える伝承を続けている。大熊未来塾代表

「防災」とは

(伝えるポイント)

- ・皆さんにとって「防災」とは?
- ・避難する為に今日から出来る備え3点



紺野 堅太 こんの けんた

岩手県釜石市出身。釜石東中学校1年生の時に東日本大震災を経験。「釜石の奇跡」の一人として率先避難を行い、鶴住居小学校や近隣住民と共に生き延びる。中学2年時は隣の中学校の校舎を間借り、3年生は仮設校舎で過ごし、1年毎に校舎が変わる中学時代を過ごす。釜石東中学校では語り部活動、大槌高等学校では復興活動に取り組む。愛知県の企業に勤めながら2022年から震災語り部活動を開始。

あいりちゃんからの命のメッセージ

(伝えるポイント)

- ・母の悲しみ
- ・何気ない日常の大切さ



佐藤 美香 さとう みか

2006年に転勤で石巻市へ引っ越し、震災の時は自宅で次女(3歳)と過ごしている時だった。長女(6歳)は高台(日和山)の私立幼稚園にいたため安心していましたが、その管理下で犠牲に。震災後は、「日和幼稚園遺族有志の会」を立ち上げ全国への発信を続けている。昨年からは紙芝居「あいりちゃんからの命のメッセージ」を使った伝承活動を開始。2017年に書籍「ふたりのせかいりょう」を出版

「命ってなんだろう？」

(伝えるポイント)

- ・震災3日後にたどり着いた故郷の状況
- ・「明日が来る」のは奇跡だということ
- ・今を大切に生きていくこと



高橋 匡美 たかはし きょうみ

震災で、生まれ故郷である石巻市南浜町一帯、実家、そしてそこで暮らしていた両親を亡くす。その心の傷から自宅に籠る日々が続いたが、2014年自分の経験や心の内を「メモリースピーチコンテスト」で語り、全国大会で銀賞を受賞。現在「命のかたりべ」として、「今」を生きる大切さを伝えている。活動の様子はFacebook「命のかたりべ」にて報告。

災害から命を守るために知って欲しいこと

(伝えるポイント)

- ・住んでいた地域の被災状況
- ・震災直後の息子の避難行動



高橋 正子 たかはし しょうこ

震災当時、海に近い自宅には高校生の息子と義理の母がいた。大津波警報が防災無線から聞こえるなか、家族とは連絡が取れず、道路は寸断され自宅に戻ることはできなかった。翌日、地区全体が津波に襲われ自宅も含め流出したことを知る。2016年より伝承活動に携わり、一昨年からは地区の裏山に逃げた息子の様子を絵本「なべになった鐘」より紙芝居で紹介している。

今、自分にできること

(伝えるポイント)

- ・震災当時の状況
- ・震災後の子どもの気持ち
- ・これからの目標



武山 ひかる たけやま ひかる

震災時は小学校4年生。地震後、家族と車で高台に避難したが、寒さのため自宅に戻ろうとしてしまい危険な状況に。自宅は全壊したため避難所から小学校に通った。震災後、多くの人が辛い思いをしたことを知り「事前に知識があれば」という思いと共に、あの時の子どもの気持ちも伝えている。2021年、震災関連の絵本「ひとりじゃない」を出版し、電子書籍で現在も販売している。

3.11 無くしたくない記憶を語る

(伝えるポイント)

- ・震災当時のこと
- ・震災直後から今まで、どんな気持ちで過ごしたのか
- ・震災を経験した私が今伝えたいこと



西城 楓音 さいじょう かざね

宮城県石巻市出身。震災当時は小学校2年生。学校から帰宅し自宅にいる時に被災し、水は来たものの自宅の2階に避難したことで自身は難を逃れる。幼稚園に通っていた2歳年の離れた妹を亡くす。2021年の夏から語り部として震災の伝承活動を始める。

社会人になる前に、知っておきたいこと！

(伝えるポイント)

- ・息子のいのちからの学び
(企業・組織防災)
- ・いのちが一番、人生の歩み方



田村 孝行 たむら たかゆき

東日本大震災の津波により、銀行という企業管理下で当時25歳の息子を亡くした。いのちの大切さや、安全な社会に向けてどうあるべきか、息子・健太より多くの事を学んだ。この学びを次世代へ繋げるために、いのちを守る防災講演(企業・組織防災)・いのちの学習の講演をし、命のバトンを渡す活動を続けている。

Listen to the Pain

(伝えるポイント)

- ・当時17歳の高校生の視点からの東日本大震災の経験
- ・その後ほとんどの期間を宮城から離れて過ごしていた時の感情
- ・自分にとって震災がもたらしたもの



千葉 颯丸 ちば かぜまる

2011年、17歳の高校生の時に東日本大震災を経験。石巻市南浜町に住んでいた大切な祖父母を津波で亡くす。震災から3日後に母と共に現場に到着し祖母の遺体を発見、その後母が遺体安置所の中から祖父の遺体も発見した。震災後のほとんどの期間を東京で生きてきたので、母とは異なる視点で、震災を起点として故郷、祖父母の死、両親と向き合ってきた経験を日英両語で話し始めている。